令和5年度　高山市立朝日中学校　学校経営の重点及び自己評価　　校長　中飯田　桂山

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	育てたい資質・能力	基本施策との関わり		本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点（手立てとしてどうか、または達成度はどうか）	評価A～D	分析と改善点
重点・挑戦し続けるたくましさの育成 方針・郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学びを実感できる授業への挑戦 ②「なりたい自分」へ向かう個の見届け・一人ひとりの子に居場所をつくる ③地域との協働・地域社会への発信 ④生き生きと働ける学校づくり	「自立」・「共生」	一人で判断して行動できる・人と関わり共に生きる	力をつける学び	①② ① ①③	ICTの効果的活用も含めて教科を学ぶ楽しさを実感し、自分から粘り強く学ぶことを充実させた授業 仲間と学び合うことを充実させ、深い学びを実感できる魅力あふれる授業 小中合同研究を踏まえた9年間を見通した授業改善	自ら学ぶ場「自立タイム」を位置づけ、生徒が課題に対して自分の力で取り組んだり、学んだことを確認したりできたを80%から→90%にする 学び合う場「共生タイム」を位置づけ、生徒が仲間と共働して、課題解決に向けた学びをより深めたを90%→95%にする 小中の子どもの実態を踏まえて、小中合同研究会を中心として共通の視点で授業改善に取り組む	A A B	・「自立タイム」（生徒評価90%）と「共生タイム」（生徒評価98%）を意識的に取り組ませ、学校全体で確実に取り組んだ成果であると考える。 ・小中合同研究会だけでなく、小中の授業をお互いに見合う教員の授業参観週間を設けて、授業改善に共に取り組む場面を増やす。
				安心できる生活	② ②④ ②	「なりたい自分」への地道な取組と個の見届け ワクワクする活動の工夫と、無理なく動ける活動の精選 心の回復力（レジリエンス）を高める指導	自己肯定感・存在感・有用感を高めるために、教員が率先して個の伸びを認め、適切な声をかける 生徒の意識に即した活動を設定し、前年度の反省を生かして本質をとらえたスリムな活動を目指す 自他のがんばりや成長などの多様性を認め、周りの人と協力関係を築けるように学級経営・生徒会活動を行う	A A B	・教師が生徒に率先して声かけを行うことにより、レジリエンスを高めることができている。不安定な生徒にはSCや教育相談により関わる仕組みをつくりたい。 ・今後も行事ごとに反省を行い、より良いスリムな形を追求し、来年度に向けて確実に方向づけをして進める。
				地域と協働・貢献	③④ ③④ ③	小学校との具体的な連携 保護者・地域との積極的な連携 9年間を系統立てた郷土教育の充実	「校区連携構想」の3つの柱（研究道徳・生指特活・教育相談）を踏まえて、小中間で具体的な連携を進める 学校と保護者が連携して、情報モラル講演会を軸に眠育につなげ、生徒が生活を自己管理する力を育てる取組を行う 保護者や地域（学校運営協議会・しとねる会・支所等）と連携を密にし、生徒の安心安全に向けて迅速に対応する 系統性を踏まえ、地域の方から郷土の自然、文化、産業、歴史等を学び、郷土のよさや課題について考える指導を行う 郷土について学び考えることを通して、生徒が将来郷土に関わりたいと思える指導を行う	B A B A A	・小中の連携を深めて、9年間を系統立てた郷土教育の充実を図りつつある。今後も整備しながら、地域を巻き込みながら、地域に根差す教育を推進していきたい。 ・今年度は組織としての3つの柱を意識づけをすることができた。来年度は年度当初から共通認識をした上で、さらに深めていきたい。また、地域にある組織の一本化も探っていきたい。

学校運営協議会における主な評価内容	・小中合同で行事に取り組んだり、授業を公開したりする機会があり、連携が進んでいることが感じられた。 ・課題解決学習を継続して、一人でも取り組み、自力で諸問題を解決していく力を今後も育んでほしい。 ・あいさつ活動や地域での学びの場の提供など、地域に守られていることに気付き感謝する心を育ててほしい。 ・ICT端末機器の持たせ方やSNSの利用の仕方など、家庭で責任をもって見守りができるよう働きかける。